

第 20 回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	ピアリンク in えひめ
開催日時	2019年2月2日（土） 10時～12時
テーマ	母と子に寄り添う避難生活支援～豪雨災害支援から学ぶ今、できること～
形式	講演会、トークセッション
講師等	公益財団法人ジョイセフ 社会連携グループグループ長 小野美智代氏
参加人数	合計 13名（女性 10名、男性 3名）
実行委員数	合計 5名（女性 4名、男性 1名）
<p>〈内容〉</p> <p>前半 1 時間程度は講演会として、女性を支援し続けてきた国際 NGO であるジョイセフならではの、過去の活動や東日本大震災以降の被災地支援で得られた経験や、豪雨災害被災者の実際の声などを中心に、平時的に今できることや心構えについてご講演いただいた。</p> <p>講演内容骨子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「3.11 後」以降見えてきたこと（妊産婦・女性への支店の不足、根深い男女格差問題） ・ 求められた支援とは（「女性を置き去りにしない・ともに歩む・女性を解放する」支援） ・ 被災三県共通の課題（避難所へ母子や若い女性は避難しない、行政が対応しきれていない） ・ 女性が抱える諸問題（女性・母子特有の物資にアクセスしにくい、ストレス、ハラスメント） ・ 過去の震災支援経験が弊害に？（早すぎて継続しない物資・寄付の流れ、ジェンダー・多様性(マイノリティ)の視点欠、メディアの報道の偏りによる支援格差） ・ 私たちが 今、できること（健康・体力づくり、SNS も含んだつながりをもつ、防災リテラシーを育てる ➡ 減災や回復力・復元力 up につながる） <p>後半 45 分程度はピアリンク in えひめ田中が司会者となり、質疑応答を含んだ会場全体を巻き込んだ形のトークセッションを行った。</p> <p>会場からでた質問・意見とそれに対する回答・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難グッズはどれくらい用意すればいいのか、被災時はどこで受け取れるのか →あるに越したことはない。行政よりも個人のつながりで欲しいものは手に入る場合がある ・ 過去の災害で有効だった SNS は何か→ツイッター、LINE などだが、地域や災害からの時間経過も関係するため、明確にこれといったツールはない。平時からとにかく人と繋がっておくことを心がけるべき ・ SNS が苦手。繋がらなくてはだめか→無理に SNS の友達を増やす必要はない。SNS でもリアル社会でも、繋がってもいいなという人がいないかと視線を上げようという意味。ただ、その数が多いほど、災害時に助け合える確率は高まる 	

- ・ ジョイセフの情報収集の仕方、支援先との連携の仕方は→主に行政の母子保健担当課や男女共同参画推進センター、地域の助産師会など。現場のニーズを調査したのち物資等の支援をする。災害時に支援情報にアクセスするために、日頃からそういった団体の Facebook ページ等をいいねしたりするとよいかも。現在は母子に特化した災害時専用サイトなどをどこも作っていないため、個人ができるだけ多くの情報にアクセスするしか支援が受けやすくなる方法がない
- ・ 小さな子供や母子が避難所にはいないとのこと。なぜか→体の不自由な高齢者や、大人も疲弊しきった被災者ばかりの空間で、子どもの声や鳴き声を上げられる雰囲気ではない。避難所によっては授乳室などもあるが、空いていると大人が休憩していたり、特別扱いを望める感じではなく、結局自宅に戻るか車中泊か知人宅に身を寄せる人が多い。
- ・ 小さな子供や子供連れが安心して避難できる避難所を早期に開設できるようになるために、子ども避難所用の準備グッズをパッケージにして、児童館や保育園に備えられるように準備していきたいと思っているが、そういった動きは他県にはないか（子どもの被災者を支援する NPO の方より）→ そういった動きは今のところ聞いたことがないが、画期的な案だと思うのでぜひ頑張ってもらいたいし、応援できることはしたい。
- ・ ジョイセフの情報収集先に男女共同参画推進センターがよくあるとのこと。コムズが災害時の母子支援拠点にはなりえないのか→すぐに支援拠点になるというのは難しいが、災害時の基本計画をコムズでも策定中である。どういったニーズがあるのか、NPO とも協力して情報を集めたい（コムズ職員より）。
- ・ 自身の健康が大切だというお話があった。実際に気をつけていることはあるか→何かしなければと思っていたがせず、被災者のお話を聞いてからランニングを始めた。数年前と比べて 10 キロ体重が減った。家族を守るためにも、自分の健康が一番重要だと思う。

〈参加者の声〉（一部抜粋）

- ①参加してよかったか（1～5） 5：10人、4：3人
- ②新しい学びがあったか（1～5） 5：9人、4：4人
- ③今日の情報を元に自分でも「備え」をしてみたいと思うか（1～5）
5：11人、4：1人、3：1人
- ④自分で(家族で)実践してみたいと思う、やれそうだと思う災害への備えはなんですか。
 - ・ 災害への備えというと、食料や物資のことばかり考えていましたが「健康」「体力」というのは本当に目からウロコでした。何か運動を始めなければと思ってはいましたが、何かと理由をつけてしていないので、自分と家族を守るためにも始めたいと思います。ダイエットにもなるし一石二鳥ですね！
 - ・ 仲の良い友達とライングループを作る。体力をつける。災害用のグッズを見直す。
 - ・ 周りとのコミュニティの強化、体力アップ
- ⑤講演会に参加しての感想など
 - ・ SNS での情報伝達について考えさせられました。今までの災害での SNS の広がりメカニズムを知り、災害に生かしたいと思いました。
 - ・ ジョイセフさんの活動について初めて知ったので、まず知れたことが良かったです。災害時には、ネットワークがものすごく重要になることがよく分かりました。私も地域の

ママ友レベルから始められるんじゃないかと思っています。講演会に参加して、学ぶことがたくさんありました。ありがとうございました。

- ・親子で自由に参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・人間は当事者にならないと考えが及ばないので、今まで被災地の乳幼児&母父のことを考えたことがなかったが、特別な支援が必要だと改めて考えた。
- ・災害から時間が経つ中で少しずつ災害から意識が離れていくことを防ぐためにも、今日のような学びの場は非常に有効だったと思います。

〈まとめ〉

事前申し込みと当日申し込みで総数 18 人の申し込みがあったが、キャンセル等もあり 13 人での開催になった。一方で子供連れの方が多く（6 組子ども 9 人）、母子席はいっぱいだったため今回の会場のキャパシティーでは仮に 30 人を超えていたら厳しかったように感じる。

講演会では被災地で実際に活動されている小野美智代氏だからこそその写真や、現場の声を聞きすることができ、子供連れでの避難生活の困難な様子を知ることができた。その上で平時の今だからこそできることや、女性支援の目線から得られた情報も知ることができ、少しでも災害時の心の準備ができたのではないと思う。

後半のトークセッションでは少人数ならではだと思いが、ディスカッションが盛り上がり会場の参加者も積極的に発言してくれたように感じる。参加者アンケートの回収率は 100%で、皆さん自由記載の部分も熱心に書いていただいたことや、「参加して良かったか」の問いに対して全員が 4～5 をつけてくれたことから、参加者の満足度は高かったと考えている。アンケートでは、実際にやってみたいと思う災害への備えについても考えていただいたので、講演会の振り返りと災害への備えについてイメージを膨らませてもらったのではないかと考えている。

人数が多かった場合に同じだけの参加者満足度に持って行けたかは不明なので、こういった形もイベントとしては成功だったのではないかと捉えている。